

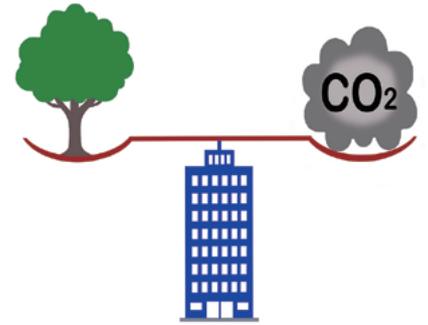


間島 寛

MAJIMA Hiroshi

岩谷産業
代表取締役社長執行役員

水素に注力、 より良い地球環境に向けて



岩谷産業は、ガス&エネルギーをメインの領域に、「総合エネルギー」「産業ガス・機械」「マテリアル」という3つの分野で事業を展開しています。このうち、家庭用と民生用のLPガス、工場で使用される産業用のLPガス・LNG、カセットコンロ・ボンベなどを含む「総合エネルギー」事業が全体の半分近いボリュームを占めています。そして、水素を含めた産業ガス、工業用分野のガス、それらに関連する機械を扱う「産業ガス・機械」事業と、ステンレスをはじめ、リチウム、コバルト、チタン、ニッケルなどの金属材料や、ペットボトルの材料など原材料を扱う「マテリアル」事業とが、残りをほぼ二分しています。

ここ数年、カーボンニュートラルがすべてに優先する、と言っても過言ではないような潮流がみられ、弊社の事業環境も大きく変わってきました。われわれにとって追い風ともいえるこの動きを、コアとして注力している水素事業を中心に、各事業の拡大やグループの発展にどううまくつなげていくかということが、目下の重要な課題です。

関連では、この5月から地球環境・エネルギー委員会の委員長を務めることになりました。前述のように、弊社の事業にもかかわりの深い「地球環境」そして「エネルギー」という2つのキーワードを冠した委員会ですので、事業経験を生かした取り組みができればと思っています。

委員会では、S+3Eに基づくエネルギー政策の実現に向けた活動を進めていますが、特に関心を持っている

テーマがいくつかあります。

一つ目は、GXによる経済成長の実現に向けた取り組みです。GXの推進にあたっては、エネルギー安定供給の確保が大きな前提となると考えています。

二つ目としては、カーボンプライシングがあげられます。本年2月に「GX実現に向けた基本方針」が閣議決定され、アンモニアや水素の分野で、政府も先行して支援をする、ということが示されました。しかしそのためには、何らかの形でカーボンプライシングが必要になります。そういった点も考慮に入れつつ、われわれ企業がGXに取り組みながら成長するにはどのような仕組みが必要か、阻害するような要素はないか、こうしたことを委員会としてもしっかり検討していかなければならないと思っています。

私は大阪の出身で、高校も大学も、会社の初任地も大阪と、30歳ぐらいまでは大阪を出たことがありませんでした。弊社も大阪発祥ということもあり、われわれを育てていただいた一番のベースは関西の経済だ、という思いは今も強くあります。そういう意味でも、2025年大阪・関西万博には非常に期待をしており、同時に、われわれとして何ができるかをしっかり考えていきたいと思っています。特に力を入れて取り組んでいる水素に関しては、この分野で日本を代表するような技術を持つ関西のさまざまな企業と連携・協力し、ともに万博の成功に貢献できればと考えています。（談）